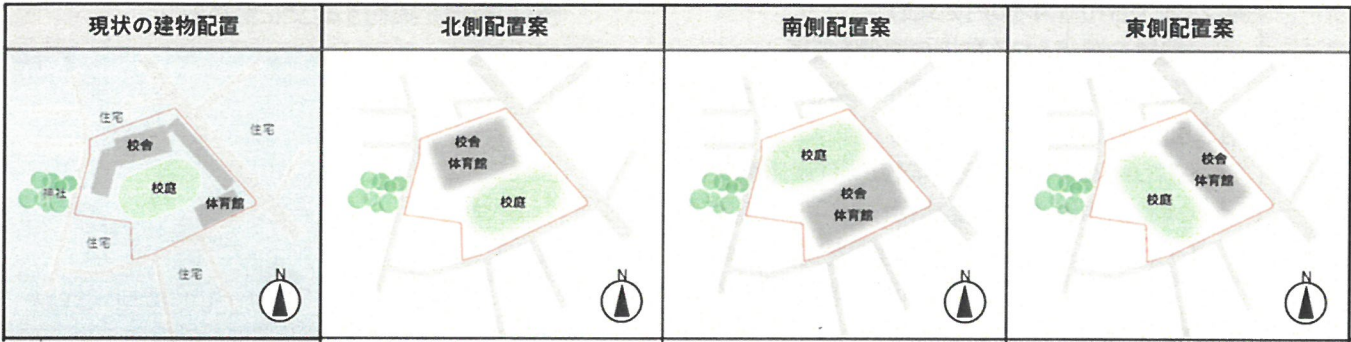


6. 敷地利用の考え方

教育委員会より、敷地や配置の条件を考慮した配置比較検討(案)の提示を受け、各配置案に関して意見交換を実施しました。提示された配置案は「北側配置案」「南側配置案」「東側配置案」の3種になります。なお、西側配置案は、北側配置案と類似のため、本検討からは除外されています。



主な意見

■「校舎配置について」

- * 廊下、共用部を広くかつコンパクトに
- * 子どもの人数に対応できる教室・空間
- * 複雑な形はやめたい
- * 上階、下階の移動を最小限に
- * 日当たりは大事だが、夏場には遮光できるようにしたい。
- * 西陽があたり、授業に影響がないように
- * 水はけはよく、校庭に水がたまらない
- * 屋上を冬の校庭の代替えに
- * 入口をどこにするか、正門、通用口、地域
- * グラウンドを通らずに校舎にアクセス
- * 仮設校舎よりも本体にお金をかけてほしい
- * 仮設校舎で過ごす期間を短くしたい etc...



【問合せ先】



本紙の内容や事業に関するご意見等がございましたらご連絡ください。

三鷹市教育委員会総務課施設係
電話：0422-29-9812（直通）

Mail : somu@city.mitaka.lg.jp ⇒
Fax : 0422-43-0320



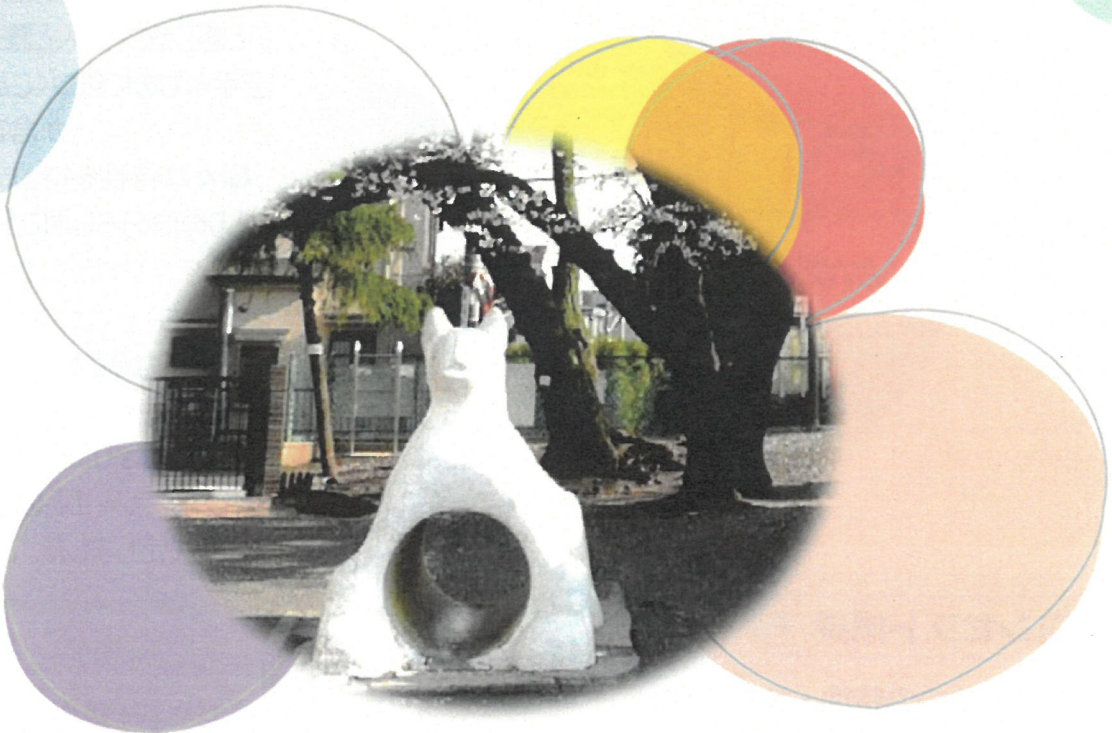
1. 提言の趣旨

三鷹市では、三鷹市立中原小学校（以下、中原小学校）の老朽化等に伴い、令和12年度の新校舎開校を目指して、建替えに向けた検討が始まりました。

そこで、三鷹市（以下、市）が策定する建替えの基本プランに関して、学校関係者、保護者、地域住民の意見を反映してもらうため、三鷹市立中原小学校教職員、PTA代表者、地域コーディネーター、周辺自治会や協議会などの代表者による「三鷹市立中原小学校建替検討委員会（以下、検討委員会）」が設置されました。

本検討委員では、最新の学校建築に関する講義やワークショップ等を実施し、建替えに関する知識・理解を深めると同時に、中原小学校の児童や教職員にもアンケートやグループワークを実施。様々な意見を集約・整理し、建替えにおける基本コンセプトを策定し、提言書としてまとめました。

本書は、基本コンセプトを軸に、未来の中原小学校が、安心・安全な環境のもとに、子どもたちがいきいきと学び、また地域とつながるプラットフォームとなることを願い、提言するものです。



中原小学校のモニュメント：はちのすけ

2. 事業スケジュール

（今後の進捗によって変更の可能性があります。）

令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
提言集提出 (コンセプト決定)	配置等の考え方 (基本プラン)策定	基本設計	実施設計			★ 新校舎 供用開始
		仮設校舎建設		新校舎等建設、既存校舎解体		校庭 整備等

ご覧いただいている内容は、【概要版】です。
提言書の全データは、三鷹市ホームページからご確認いただけます。

提言書
データ
⇒



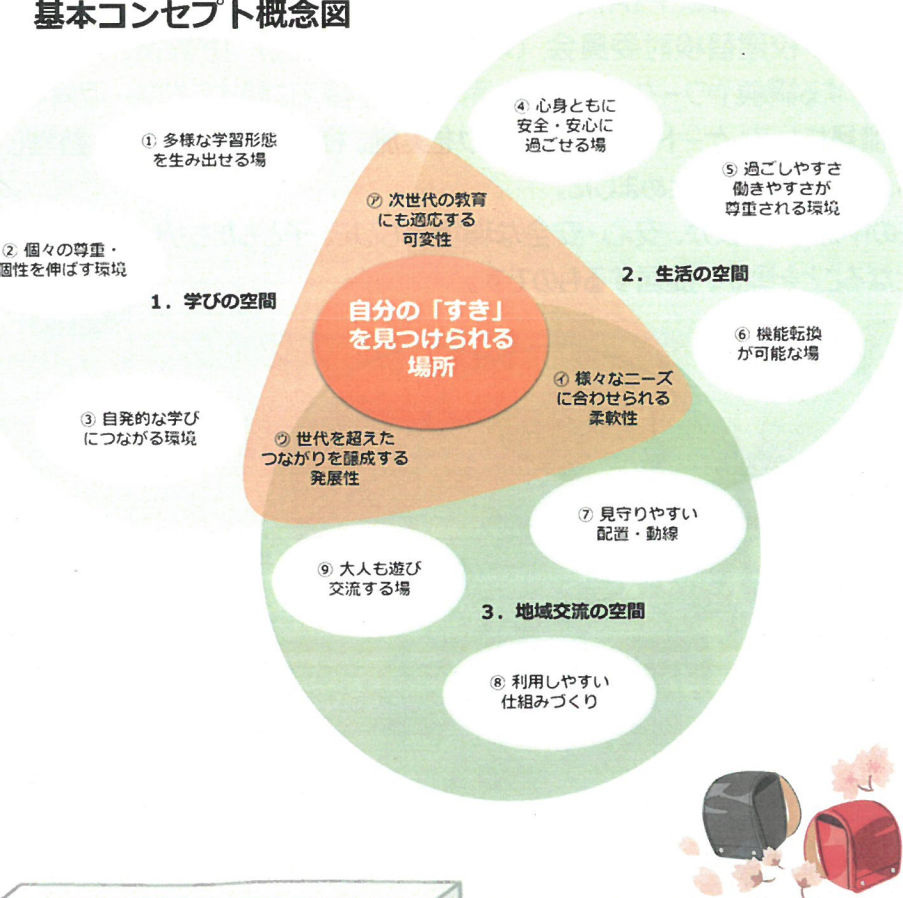
検討の
経緯
⇒



3. 基本コンセプト

自分の「すき」を見つけられる場所

基本コンセプト概念図



新しい中原小学校の建替えに当たり、地域の未来を担う子どもたちにとって、自分の「すき」を見つけられる場所となることを願い、基本コンセプトを掲げました。

「すき」という言葉の意味には、趣味や特技に繋がることだけではなく、楽しいと感じること、人と繋がれることや、苦手なものに気づくことなど、自分らしさを見つけることが含まれています。

様々な特性を持った子どもたち一人ひとりの自分らしさに合わせて、安心して「すき」を選択できる場所に、大人にとっても「すき」を共有し、交流できる場所になること。そして、この学び舎を通じて子どもと大人がお互いに目線も心もつながり、地域全体の発展につながっていくことを目指し、本コンセプトに決定しました。

4. 基本コンセプト概要

～3つの空間・3つの特性・9つの柱～

自分の「すき」を見つけられる場所は、土台がしっかりすることで保障されます。ここで土台と考える内容は、学びを深め広げる「1. 学びの空間」、多様性や個性を尊重し、日々の活動を支える「2. 生活の空間」、地域に見守られ、地域との交流を支える「3. 地域交流の空間」の、3つの空間としました。

そして、いずれの空間においても、⑦：次世代の教育にも適応する可変性、④：様々なニーズに合わせられる柔軟性、⑤：世代を超えたつながりを醸成する発展性、を備えていることで、学校での活動や地域が持続可能となると考え、3つの特性と位置付けています。

また、3つの空間を支えるための方針を「9つの柱」と名付け、それぞれの柱に各空間の具体策を示していきます。

検討委員会や教職員のグループワーク、児童のアンケート等から、様々な意見や要望を集約しました。

1. 学びの空間

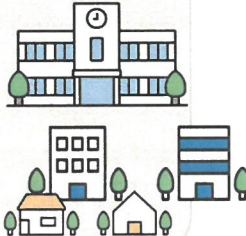
- ① 多様な学習形態を生み出せる場
- ② 個々の尊重・個性を伸ばす環境
- ③ 自発的な学びにつながる環境

2. 生活の空間

- ④ 心身ともに、安全・安心に過ごせる場
- ⑤ 過ごしやすさ、働きやすさが尊重される環境
- ⑥ 機能転換が可能な場

3. 地域交流の空間

- ⑦ 見守りやすい配置・動線
- ⑧ 利用しやすい仕組みづくり
- ⑨ 大人も遊び交流する場



5. コンセプト検討概要

検討委員会 計5回	第1回（令和6年8月23日） ・みんなの想いを知る ・近年の学校に求められる機能や学習環境を知る
	第2回（令和6年10月23日） ・地域の拠点となる学校の事例を知る 【グループワーク】「地域の拠点となる学校ってどんな学校？」
	第3回（令和6年12月12日） ・これからの学びを支える学校の在り方を考える ・未来の中原小学校を想像しイメージを深掘りする 【グループワーク】「これからの学びを支える学校ってどんな学校？」 「新しい中原小学校ってどんな学校？」
	第4回（令和7年1月17日） ・中原小建替えにおけるコンセプト案策定に資する意見交換の実施 【グループワーク】「コンセプト案について」 【全体討議】グループワークのまとめを受けて、委員全体での議論
	第5回（令和7年2月25日） ・中原小学校建替えに向けた基本コンセプト案の決議 ・新しい中原小学校の配置計画を考える 【グループワーク】「校舎配置案について」
教職員説明会	全1回（令和6年11月14日） 【グループワーク】「これからの授業の在り方を踏まえた施設とは？」 「先生方の働きやすい学校、柔軟な働き方のできる学校とは？」
児童意見・アンケート	第1回（令和5年度3月） 授業形式（6年児童 計37人） 第2回（令和6年度1月） アンケート形式（全学年児童 計482人）

コンセプトは、建替え検討の軸となる考え方です。児童・教職員・地域住民に愛される学校となるために、皆の意見や要望が集約されていることが、必要不可欠であると考えました。提案に至るまでには、検討委員会を中心に議論を重ねてきました。中原小学校教職員、児童アンケートの結果も併せて検討し、より多くの意見を集約することに努めました。



いただいた意見・要望を、左ページで示す「3つの空間・3つの特性・9つの柱」という視点においてグルーピングし、それぞれの空間を支えるための具体的な施設づくりの方針を検討し、コンセプトに反映させました。



主な意見

■「地域の拠点となる学校ってどんな学校？」

- * 子どもたちが自分たちで選択しながら過ごせる場所
- * 児童が勉強や学び、遊びを通して育っていった欲しい
- * 不登校の子どもたちの居場所も忘れずにしたい！
- * 子どもたちが安心してやりたいことをたのしめる放課後
- * 先生も使えるワークスペース
- * 放課後など地域の方が利用できる場所（校庭、体育館）

■「これからの学びを支える学校ってどんな学校？」

- * スペースを変えられる教室
- * 移動や収納しやすい椅子机
- * 子どもたちが興味関心を広げられる場。
- * 集まりやすい。ディスカッションしやすい場所
- * 地域部活→大人と子供が一緒に活動
- * 小学生と中高生、高齢者が共存する

■「新しい中原小学校ってどんな学校？」

- * 教室以外にもお気に入りの場所が見つかる
- * 休み時間に興味を持てる場所
- * 壁のない空間
- * 大人が楽しむ姿が身近にある
- * 卒業しても仲間と会える集える場所

■「コンセプト案について」

- * ○○に出会える学校（文化、ひと、地域、未来、自分…）
- * 明るくて、温かくて、みんなに平等で均一な教育環境
- * 自主的に、自由に学ぶことができる
- * 子どもも大人も行きたくなる学校
- * 学び・憩いの場パーク
- * 誰でもいつでも誰とでも
- * 子どもと共に、地域の人も先生も安心できる

※各グループワーク、児童意見・アンケートの全回答は、市ホームページ掲載の提言書【資料編】をご覧ください。